

芽室・北土開発

【芽室】ビートの製糖工程で出る副産物のライムケーキを原料とした土壌改良剤「粒状ライム」を建設業の北土開発(十勝管内芽室町)が製品化し、芽室町農協とともに九日、町内の牧草地約三十畝でテストを試験散布した。

ライムケーキの産出量は日本甜菜製糖芽室製糖所だけで年間四万トン以上り、このうち約二万五千トンを産廃廃棄物として処理されている。道内では粉状の改良剤として一部利用されてきたが、散布の際にむらなさが生じるのが難点。このため、北土開発は芽室町農協などの要望を受け、直径二・八センチの粒状に改良した。

「粒状ライム」はアルカリ分約38%で、窒素、リン酸、カリ、ナトリウムや有機物を含む。一袋

ビート糖副産物
土壌改良剤に

(五百キ)五千二百五十円(送料等別)と、一般的な石灰資材に比べ四割ほど安い。肥料効果が期待でき、散布量の目安は畑十ヶ当たり三百キ(牧草地は五百キ)。

芽室町農協は「生産コスト低減とリサイクルの両視点で注目している。散布試験を見る限り、農家の持っている機械で「きそうだ」と普及に期待している。

製品の問い合わせは北土開発 ☎0155・62・3124へ。



散布試験のため袋から散布機に移される「粒状ライム」

地方版

コスト抑制に期待
芽室 土壌改良で高い関心

【芽室】町農協などに越したことはなランスタドイッでは九日、町内で行った「いと」と話し、散布の様子をじっと見守った。一方、日本甜菜製糖「できれはうれしい」と話している。リサイクル物ライムケーキを原料とした土壌改良剤「粒状ライム」の試験散布は「ライムケーキはフ」でその多くが処理され

は農業関係者約三十人が見守り、関心の高さがうかがわれた。農業資材高騰の中、町農協は「コスト高を抑える資材になりそう」と、期待を口にした。

三十畝の牧草地を散布場所として提供した中島芳直さん(五七)は「三年ぐらい様子を見ないと本当の効果は分からない。でも、安い

ているライムケーキの有効活用の可能性を歓迎した。

芽室町農協の道場琢也経済部長は「従来の粉状から粒状になったことで、散布面積が広がった。農家の手持ちの機械で十分まける」とこの日の散布を評価した。

(椎名宏智)



「粒状ライム」とその試験散布の様子を見守る関係者

粒状ライム「実用レベル」

北土開発 JAめむろ 散布実験で“結果良好”

ブロードキャスターから勢いよく散布される粒状ライム



本田製糖製糖芽室製糖所から発生する年間約4万トンのライム処理を委託する北土開発は、一部を乾燥粉末状にし、6年前から特殊肥料として販売している。ただ、粉末状など散布に特殊車両が必要などの制約があったため、同社では昨年、粒状の改良品開発を成功させていた。

実験は、農家に一般的に普及する農業機械を用いて散布効果

【背景】ビートの製糖工程で発生する副産物のライムケーキを肥料・土壌改良材として再利用しようと、建設業の北土開発(町東6ノ10、山田明博社長)が開発した「粒状ライム」の実用性を確認するため、同社JAめむろほり日、町上生の草地区ロードキャスター散布機を使った散布実験を行った。結果は良好で、同JAでは「実用レベルに達している」と普及への期待を寄せている。

ライムケーキは、製糖工程で発生する副産物のライムケーキを肥料・土壌改良材として発生する有機不純物を石灰・整作用があるほか、有機物由来の肥料成分も含有する。

このため、日本甜菜製糖芽室製糖所から発生する年間約4万トンのライム処理を委託する北土開発は、一部を乾燥粉末状にし、6年前から特殊肥料として販売している。

ただ、粉末状など散布に特殊車両が必要などの制約があったため、同社では昨年、粒状の改良品開発を成功させていた。

実験は、農家に一般的に普及する農業機械を用いて散布効果

を「確認し、普及への足掛かりをつかち」と行った。町上生の酪農業、中島芳直さん

(50)が1坪と資材を提供。関係者30人が参加し、ブロードキャスターから勢いよくライムが散布される様子を確認した。中島さんは「ほかの土壌改良材散布作業と変わらぬ」と話した。

粒状ライムは一般的石灰肥料と比べ、成分当たり価格

が約半減減であるという。同社の山田社長は「粒の状態で、製品としての完成度が高まった」と手応えを話し、JAめむろの圃場出経済部長は「資材、肥料代が高騰する中、生産コスト低減も期待できる」と話した。

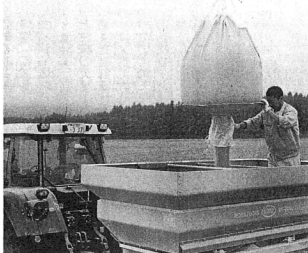
(長田純一)

粒状ライムケーキ肥料

使いやすいくて低価格

利用拡大に期待

J Aめむろ



十勝で粒状ライムケーキの散布試験実施（芽室町で）

十勝管内芽室町のJAめむろは9日、同町に隣接する鶴巻にて、葉から砂糖を精製する工程で発生するライムケーキを粒状にしたライムケーキ土壌改良肥料「粒状ライム」の散布試験をした。

ライムケーキは炭酸カルシウムの含有量が多く、細地や草地の土壌改良材として利用されてきた。粉体のため吸湿性が高いため、専用散布機が必要だったが、今回利用している農業家の粒状加工の要望が強くあった。同町の備北土開発が開発製造した「粒状ライム」は、粉体のライムケーキを粒状に加してあ

で散布ができる。保存性も向上した。
また、「粒状ライム」にはケルカリ分のほか、窒素やリン酸、カリ、有機質などが含まれ、従来の炭カルに比べ肥料としての効果も期待できる。
価格も含有するカルシウム成分で比べると、炭カルよりも約3割程度安くなっている。

散布試験は同町上養生の中島秀直さん(58)の草地で行われ、2台の肥料散布機を使い約30分の草地に10ジの「粒状ライム」を散布した。
JAの道場塚也経済部長は「圃場(ほしやう)への散布試験で、農家での利用の可能性を強くした。肥料の高騰が続く中で、少しでも低コストな資材の供給を求めたい」と話した。
同社の山田明哲社長は「農家使いやすい粒状にすることで、現在、発生量の40%程度しか利用されていないライムケーキの利用度を高めたい」と話している。

「粒状ライム」の問い合わせ

0155(0)50331
0155(0)50331

0155(0)50331